

なぜ人は接触確認アプリの利用をためらうのか

<p>どんな研究</p>	<p>COCOAはコロナ感染症対策の一つとして期待されますが、その普及率は低迷しています。本研究でCOCOAのインストールや利用実態を調査した結果、人々は社会的規範や社会便益を意識して行動する一方で、偏見などを恐れて陽性登録を行わない傾向があることがわかりました。</p>
<p>どこが凄い</p>	<p>本研究結果は、たとえアプリのインストール数が増えたとしても、アプリ本来の効果が得られない可能性があることを示唆しています。アプリの普及に努めるだけでなく、正しい利用を促す対策の必要性、特に人々の不安を解消することの重要性を指摘しました。</p>
<p>めざす未来</p>	<p>本研究は、個人の権利や利益を守りつつ社会的便益を実現する情報技術の設計方法に示唆を与えるものです。この研究をさらに発展させることで、SDGsや環境問題など、個々の行動を結集して社会的便益を実現するような問題の克服に貢献することが期待されます。</p>

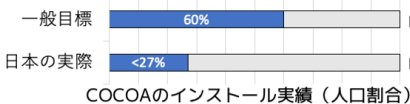
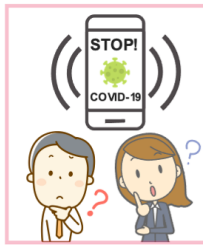
新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA)

COCOA は、日本政府が提供する新型コロナウイルス接触確認アプリです。

濃厚接触の疑いのある利用者間の接触をBluetoothによって検知・記録し、その旨を通知します。

利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることが期待されています。

日本国内にとどまらず、多くの国で、接触確認アプリの普及率が低いことが報告されています。



→ アプリの利用意図を促進・阻害する要因を理解する必要性

[1] Hinch, R., et al., "Effective configurations of a digital contact tracing app: A report to NHSX," 2020.
 [2] 厚生労働省, "新型コロナウイルス接触確認アプリ," 2022. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoo_00138.html

研究背景と調査設計

既存研究により、利用者が接触アプリをインストールするか否かは、アプリの有効性、使いやすさ、社会的な影響、プライバシー侵害への懸念などに影響されることが分かっています。

一般に、感染拡大を防止するために次の行動を取ることが期待されます。

- 📌 新型コロナウイルス感染症の陽性と診断されると、アプリに陽性者登録を行う。
- 📞 接触通知を受けると、なるべく自己隔離をして体調の様子をみたり、職場や関係者に連絡するなど、適切に対応する。

本研究では、接触確認アプリをインストールした後の利用状況や日常生活への適合性を調査します。

調査方法： アンケート (153人)、インタビュー (15人)

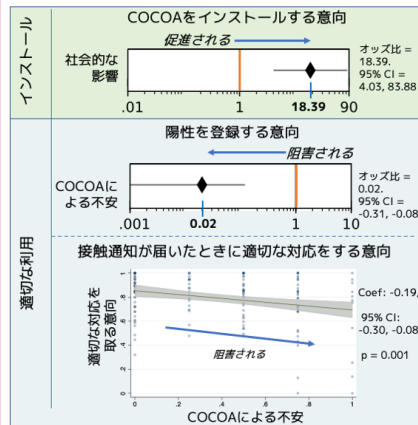
従属変数

- COCOAインストールの有無
- 陽性登録に対する意向
- 接触通知に対して適切に対応する意向

独立変数

- 社会的な影響 (アプリをインストールしている知人の有無)
- アプリ利用による不安 (アプリを利用することによって不安が増幅するか否か)

アプリの利用意向に影響する因子



社会的な影響 = インストールの促進要因

COCOAを利用することによって生じる不安 = 感染拡大防止に役立たない行動を取る傾向:

- a) 陽性を登録しない
- b) 接触通知が来ても適切に対応しない

インストール数が増えても感染拡大防止に役立つとは限らない

29%の人がCOCOAの利用によって不安が増幅されると回答した理由

社会的偏見にさらされる恐れ

“田舎に住んでいるので、匿名でもすぐに誰が感染者かわかってしまうと、感染後に色々な噂が立つのも怖い。”

経済的損失に対する恐れ

“職場に伝えたら職を失ったというニュースを見るので、通知が来たことを考えると少し心配です。”

COCOAを取り巻く現状

- 接触通知が来てもそのことを隠す
- 感染しても陽性登録をしない

今後必要な取り組み

アプリの利用によってネガティブな事柄が想起されやすい→ 社会的報酬が得られる仕組みをアプリに導入

社会的偏見などの不安によって適切にアプリを利用できない→ 社会的偏見や経済的損失に対する補償など、ユーザを取り巻く環境を変えるための組織的な取り組みの重要性

接触確認アプリを超えて→

集団の利益に役立つ情報技術を研究開発することの必要性

関連文献

[1] J. Jamieson, N. Yamashita, D.A. Epstein, Y. Chen, “Deciding if and how to use a COVID-19 contact tracing app: Influences of social factors on individual use in Japan,” in *Proc. ACM Hum.-Comput. Interact.* 5, CSCW2, Article 481, (CSCW’21), pp. 1–30, 2021.
 [2] J. Jamieson, D.A. Epstein, Y. Chen, N. Yamashita, “Unpacking intention and behavior: Explaining contact tracing app adoption and hesitancy in the United States,” in *Proc. the 2022 CHI Conference on Human Factors in Computing Systems (CHI ’22)*, pp. 1–14, 2022.

連絡先

ジャック ジェーミソン (Jack Jamieson) 協創情報研究部 インタラクシオン対話研究グループ
 Email: cs-openhouse-ml@hco.ntt.co.jp